



WASEDA ROPE

平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 広島県立福山葦陽高等学校
- 2 実施日時 : 2016 (平成 28) 年 12 月 7 日 (水)
- 3 対象 : 全校生徒 (960 名)
- 4 派遣オリンピック: 青木 愛さん(シンクロナイズドスイミング 北京オリンピック チーム出場)

5 授業内容 : 講演

北京五輪のシンクロナイズドスイミング チーム 5 位に入賞され、現在は京都踏水会にてシンクロナイズドスイミングの指導を行うなど、様々なフィールドで活躍されている青木愛さんは、この度、「私とオリンピック」という内容で、4 名の代表生徒とのトークショー形式の講演をされました。

青木さんは、小学校 2 年生の時から京都踏水会でシンクロナイズドスイミングをはじめ、小学 4 年生で国内大会のジュニア五輪で優勝。京都文教高校 1 年生の時より指導の厳しさで有名な井村雅代さんが率いる『井村シンクロクラブ』に所属し、競技に打ち込みました。

また、シンクロナイズドスイミングを始めたきっかけについて、もともとは、普通のスイミングクラブで競泳の練習をしていましたが、「綺麗なお姉さんに憧れてシンクロを始めた」と、少女のあこがれの動機ではあったものの、始めた時から五輪出場が目標だったと語られました。こうして自身で決めた目標を持ち続け、その目標に向かって人一倍努力するという姿勢や持ち前の芯の強さが 4 名の代表生徒との対談のなかで感じられました。

また、チームで出場した北京五輪は 5 位という結果に終わったことについて、「夢の舞台に立てたことは良かったが、メダルがとれずに悔しさしか残らなかった」と振り返ってお話しされました。それでもこれから、「2020 年に向けてシンクロナイズドスイミングの魅力を伝えていきたい」と今後の抱負を語っていただきました。その上で全校生徒には、「スポーツは社会生活のあり方を教えてくれる。苦しいことがあっても頑張ることが大切。周囲の人の支えが自分を支えてくれる」など、ご自身の経験からの力強いメッセージを伝えられました。

講演を聞いた生徒からは、事後のアンケートにおいて、「実際にオリンピック会場で試合をした人にしか分からない雰囲気やオリンピックの様子など、貴重な話が聞けて良かった」、「シンクロだけでなく、色々なスポーツやオリンピックに対して興味が湧いてきた」、「オリンピックを身近に感じるようになった」といった感想があげられるなど、なかなか知ることのないオリンピックや競技スポーツのことについて、とても興味を持ったようでした。また、青木さんのようなオリンピックでさえ、自分たちと同じように練習や競技をやめたいと思う気持ちがありながらも、そうした気持ちを乗り越えてオリンピック出場を果たした青木さんの姿に感銘を受けた生徒も多く、「自分も何か一つ熱中できることを見つけようと思った」、「続けて頑張れるスポーツや、尊敬する人を見つけ、目標に向かって頑張りたい」といった意見も見られました。

6 授業の様子



4名の代表生徒の質問に丁寧にお答えする青木氏と真剣な眼差しで聞き入る全校生徒



テニス部・サッカー部・水泳部の代表生徒、ならびにフロアの生徒から多くの質問がありました



保健体育科の栗田先生（水泳部顧問）の質問



心のこもった感謝の謝辞と花束贈呈



講演後の全校生徒との集合写真撮影、ならびに代表生徒および保健体育科の先生方との記念撮影